

この紙のゴール：6つの型を運用し、意味の変わる動詞と慣用表現を自分の英文で使い分けられる

入試へ挑むクラス 偏差値のめやす 60以上 意味上の主語・完了動名詞まで見ます（確認は4択）

気づき AとBは動詞が同じ stop。うしろの形だけが違う。意味はどう変わる？（30秒考えて、となりの人と答え合わせ）

A	He stopped reading the message.
B	He stopped to read the message.

Aの reading は stop の目的語—「読むこと」をやめた。Bの to read は目的—立ち止まった理由が「読むため」。どちらを取るかは動詞ごとに決まっていて、enjoy / finish / stop は目的語に -ing しか取らず、hope / decide / promise は to しか取りません。手がかりは-ing 側が「すでに始まっていること」、to 側が「これからのこと」（mind / consider は例外）。選ぶのは生徒ではなく、前の動詞。

整理 動名詞の6つの型（高校範囲の骨組み）

形	作り方	表すこと	例文
主語・補語	V-ing ... + 動詞 / 主語 + is + V-ing (補語)	～すること（補語：My hobby is taking pictures.）	Getting up early is hard for me. 早起きは自分にはつらい。
動詞の目的語	enjoy / finish / stop / give up + V-ing	もう始まっていること	I finished writing my report. レポートを書き終えた。
前置詞のあと	前置詞 + V-ing	前置詞は必ず名詞を取る	Thank you for waiting for me. 待ってくれてありがとう。
to が前置詞のもの	look forward to / be used to + V-ing	この to は不定詞ではない	I am used to using this app. このアプリを使うのには慣れている。
意味上の主語	所有格・目的格 + V-ing	「誰が」するのかを言う	I am proud of my sister winning the game. 妹が勝ったことを誇りに思う。
完了動名詞・慣用	having + 過去分詞 / It is no use V-ing	主節より前のこと／～してもむだだ	It is no use running after the last train. 終電を追いかけてもむだだ。

意味上の主語は代名詞なら目的格がふつう・かたい書き言葉では所有格（I don't mind him coming./his coming.）。名詞はそのまま置き、無生物は所有格にしません（the door being opened）。It is no use doing/There is no telling what will happen.（～できない）は形ごと覚える慣用表現。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) She decided (joining / to join / join / joined) the club next month.
- (2) Thank you for (to show / show / showing / shown) me the way to the station.
- (3) I am looking forward to (see / to see / seen / seeing) you again.
- (4) I am sorry for (not calling / not to call / calling not / do not call) you last night.
- (5) He is proud of (his son won / his son winning / his son to win / win his son) the contest.

動名詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	to join	decide のうしろは to だけ。「これからのこと」を決める。
(2)	showing	for は前置詞。前置詞のうしろは必ず名詞のはたらき = -ing。
(3)	seeing	この to は前置詞。だからうしろは -ing (不定詞の to ではない)。
(4)	not calling	否定の not はかたまりの前。前置詞のあとなので -ing。
(5)	his son winning	「誰が」=意味上の主語 his son (かたい書き言葉なら his son's)。前置詞 of のうしろは -ing。

つまずき① 「-ing か to か」を自分で選ぶとする

生徒はよく「どっちがしっくりくるか」で選ぶとします。しかし**選ぶのは前の動詞で**、生徒の裁量はありません。覚え方は意味のまとまりで—enjoy / finish / stop / give up / practice はもう始まっていることなので -ing、hope / decide / promise / want / expect は**これからのこと**なので to。この2群を先に固めると、残りは少数の例外で済みます。(mind / consider / avoid / put off は「これからのこと」でも -ing を取ります。この4語だけは名指して覚えさせてください。)

つまずき② remember / forget / try は意味が変わる

同じ動詞でも、うしろの形で**意味そのものが入れかわる**数少ないグループです。remember to lock=これから鍵をかけるのを忘れずに／remember locking=鍵をかけたことを覚えている。try to open=開けようとする(できていない)／try opening=ためしに開けてみる。ここは①の原則(動詞が決める)の例外ではなく、**-ing=すでに／to=これから**が意味に出ているだけです。

× Don't forget locking the door when you leave. → ○ Don't forget to lock the door when you leave.
これからする行為なので to。forget+-ing は「～したのを覚えている」側=記憶を問う形で使い、命令文では使わない。

つまずき③ look forward to のうしろを原形にする

look forward to の to は**前置詞**で、不定詞の to ではありません。だからうしろは -ing。見分け方は「to のうしろに名詞を置けるか」—I look forward to the trip. と言えるので前置詞です。同じ仲間に be used to (慣れている)・object to (反対する)。

× I am looking forward to see you again. → ○ I am looking forward to seeing you again.
to のうしろに the trip のような名詞が置けるので前置詞。前置詞のうしろは -ing。

つまずき④ 前置詞のあとは例外なく -ing

for / at / about / without / before / after のうしろに動詞が来るときは、**必ず -ing**です。ここには例外がないので、迷ったらず「前が前置詞かどうか」を見ます。without saying goodbye (さよならも言わずに)・before going to bed (寝る前に)のように、日本語では動詞に見える部分が英語では名詞のはたらきになります。(唯一気をつけるのは but / except。He does nothing but complain. のように原形が続きます。生徒には出しませんが、質問が出たときのために。)

つまずき⑤ -ing のつづりで落とす

内容は分かっているのに形が作れずに×になる答えは、学び直し・基礎固めの帯でいちばん多く出ます。**e で終わる語は e を取る**(take→taking / write→writing)、「**短い母音+子音1つ**」で終わる語は**子音を重ねる**(run→running / swim→swimming / get→getting) / lie→lying。動名詞は**形が作れて初めて使えます**。導入の1分をここに使ってください。

× I finished writeing my report. → ○ I finished writing my report.
e で終わる語は e を取って -ing。反対に swim / get / run は子音を重ねる。

授業のひとつ 前日にこの紙を配り、確認問題まで解いてこさせる反転で使えます。授業は「remember / forget / try で意味がどう変わるか」の検討に充てると、この帯の知的負荷に見合います。授業のはじめの1分に使える問い—him coming と his coming、自分ならどちらで書くか。理由もつけて隣と交換させてください。

